



特集

今年も地域から 元気を発信!

【写真】『栄町ふれあいサロン』で楽しく交流を深める参加者

KOTOSHIMOCHIIKIKARAGENKIWOHASSIN!



↑パークゴルフ大会

ふれあいサロン↓



このような中、市内には、課題の解決に向けて住民どうしが協力し合い、魅力的なまちづくりを進めている地域があります。今回の特集では、さまざまなアイデアで地域活動に取り組む2つの事例を紹介し、住み慣れた地域で心豊かに暮らしていくために必要なものは何かを考えます。

生涯にわたり充実した人生を送るためには、やはり地域との関わりは必要不可欠です。地域の課題を自ら解決していくという姿勢が、心の豊かさや生活の質を向上させるためのカギとなります。そのためには、住民相互の助け合いによって主体的に取り組むことが重要です。しかしながら、一般的には、自分や家族の時間を大切に思うあまりに、地域活動などへの参加を煩わしく感じたり遠ざかろうとしたりする傾向にあります。

少子高齢化や核家族化が進行し、価値観の多様化が進むにつれて、地域に対する関心や愛着が薄れ、人と人とのつながりが希薄になっているといわれています。

人間の本質は、支え合って生きることです。

KOTOSHIMOCHIIKIKARAGENKIWOHASSIN!



市内外から愛好者が参加し、大いに盛り上がった第10回パークゴルフ大会



気の合う仲間など日ごろから多くの利用者が訪れます

インタビュー

自分たちがキレイにした公園で楽しくプレー

私たちは楠久津公園の維持管理を行っています。特に夏場は、月4、5回の除草作業を行うなど大変なことも多いのですが、みんなで協力し合いながら公園をきれいに保っています。楠久津公園の自慢は、何といっても私たちが作ったパークゴルフ場。地元だけでなく、市内外からたくさんの人が訪れ、仲間との楽しい時間を過ごしています。この憩いの場を作る前には、熊本県や福岡県、長崎県などへ視察に行き、どのようにすれば楽しくて本格的なコースができるか、アイデアを出し合いながら完成させました。起伏が激しくて難しいホールもありますので、健康づくりにはもちろん、頭の体操にもなります。皆さんもぜひ、一緒にパークゴルフを楽しんでみませんか。



楠久津区長、
楠久津ボランティアクラブ
代表世話人 吉崎 弘さん

大人気のパークゴルフ

楠久津ボランティアクラブ(TBC) パークゴルフが「つなぐ絆」

公園管理 & 健康づくり

山代町の楠久津公園では、パークゴルフを楽しむことができます。パークゴルフとは、子どもから高齢者まで誰もが簡単にプレーできるようにゴルフを改良したスポーツのこと。起伏のあるコースをまわってボールをカップに入れるなど、グラウンド・ゴルフと

比べると、よりゴルフに近い球技です。手軽にできるという点で全国的にも広がりを見せています。

市内で唯一となるパークゴルフ場が楠久津公園にできたのは、平成20年6月。公園の維持管理を行っていた楠久津ボランティアクラブ(TBC)が、市の公園占用許可を得て、公園の形状をそのまま生

かしながら、手製で18ホール(572坪)のコースを作り上げました。

この施設では、TBCが主催するパークゴルフ大会が年数回行われており、平成24年10月には第10回の大会が盛大に開催されました。今では地元だけでなく市内外から多くの人が訪れており、プレーを通じて交流を深めながら健康増進にも役立てています。

環境改善を図りながら

市民の憩いの場として皆さんに親しまれている楠久津公園ですが、時には心ない利用者が捨てたゴミなどによって、景観を乱していたこともあったようです。このような状況を改善し、きれいな公園を取り戻そうと地元住民が立ち上がり、平成20年にTBCを発足。市が進めている『公園の里親制度』を活用し、定期的に除草作業やゴミ拾いを行うなど、主体的に公園内の環境美化に努めています。

これは、自分たちで使う公園を自分たちで美しくしようという考え方。きれいなコースでパークゴルフを楽しむために公園の美化に取り組む、公園が清潔なので多くの人が



楠久津公園の維持管理に取り組んでいるTBCの皆さん

①公園管理とパークゴルフ

公園がきれいになることにより、一層パークゴルフを楽しむことができ、また利用者也増えています。



訪れるといった相乗効果も現れているようです【①公園管理とパークゴルフ】。
何かと苦勞の多い公園管理ですが、TBCではパークゴルフを楽しむことで、継続的で前向きな地域づくり活動につながっています。



ボランティアによる住宅用火災警報器を設置



『支え合い買い物』の日、皆さんから「お元気ですか」と声をかけられる井上さん(右)

高齢者を元気に！

栄町地域づくり会

心温まる支え合い活動

高齢化が進む栄町

栄町は大坪地区と脇田地区に位置し、伊万里中学校北側の高台に住宅団地を形成しています。平成24年5月現在で、438世帯1072人が住んでいます。

栄町の誕生は、未曾有の大水害が起こった昭和42年ごろ。佐賀県労働者住宅供給公社の分譲住宅15戸が建設されたのが始まりです。その後、民間による開発や県営住宅、アパートの建設などが進められ、昭和50年にはほぼ現在の栄町を形成しています。

②栄町の高齢化率の推移

- 平成20年
 - ▷人口 1,051人
 - ▷65歳以上 273人 (25.97%)
- 平成22年
 - ▷人口 1,079人
 - ▷65歳以上 277人 (25.67%)
- 平成24年
 - ▷人口 1,072人
 - ▷65歳以上 283人 (26.39%)

栄町は市内でも早い時期に団地が造成され、40数年が経過した行政区ということもあり、次第に高齢化が進んでいます。【②栄町の高齢化率の推移】。高齢者のみの世帯も年々増加している傾向にあるため、何らかの方策が必要となっていました。

地域づくり会を発足

このようなことから、高齢化の進行に対する地域福祉サービスの向上を図るため、平成21年6月12日に『栄町地域づくり会』が設立。誰もが心温まるまちづくりを進めようと独自の『支え合い』活動を行っています。

会では、まず住民の年齢別構成や一人暮らし高齢者の実態などについての調査を実施しました。その結果をもとに地域の状況をきちんと把握し、課題に応じた対策を考えながら、工夫を凝らした活動に取り組んでいます。その主な内容を紹介します。

インタビュー

住み心地が一番の『栄町』！

縁あって栄町に住むようになり、約10年が過ぎました。買い物のお手伝いなど、近所の皆さんにはいつも親切にさせていただき、とても住み心地が良いと感じています。現在97歳になりますが、毎日を元気に過ごしています。いま楽しみにしているのは、毎月開催される『ふれあいサロン』ですね。友達と会って話をするのが元気の秘訣です。私は好奇心旺盛な性格ですので、これからもいろんな行事に参加して、ますます元気に過ごしていきたいと思っています。

栄町の最高齢者
井上 スマコさん



火災警報器の取り付け

平成21年7月には、『住宅用火災警報器』の共同購入とボランティアによる取り付けを実施しました。対象は、65歳以上の一人暮らし高齢者世帯。その後、二人世帯などにも設置を進めてきました。どうしても避難に時間がかかる高齢者にとって、火災は『命』に直結するものです。いかに早く火災に気づくかが何よりも重要です。高齢者が安心して生活できるよう、これまで22世帯に設置を行いました。

『緊急医療情報キット』

平成24年10月には、70歳以上の一人暮らし世帯に緊急医療情報キットを設置しました。これは、医療情報などを

専用の容器に入れて冷蔵庫に保管しておくものです。容器の中には、かかりつけ医や持病、緊急連絡先などの情報のほか、健康保険証や診察券の写しなどを入れておき、万一の救急時に備えています。玄関ドアの内側や冷蔵庫のドアに専用ステッカーが貼ってあり、救助する人などが一目で分かるように工夫されています。どこの家庭にもある冷蔵庫に保管することで、災害時でも見つけやすく、素早い救命活動につながることを期待されており、現在は36世帯に設置されています。

『支え合い買い物』

生活に必要な不可欠な買い物も、高齢者にとっては大変なことのひとつです。77歳以上



平成 24 年 9 月 28 日開催の NPO 法人設立総会で、会員などが熱心に議論



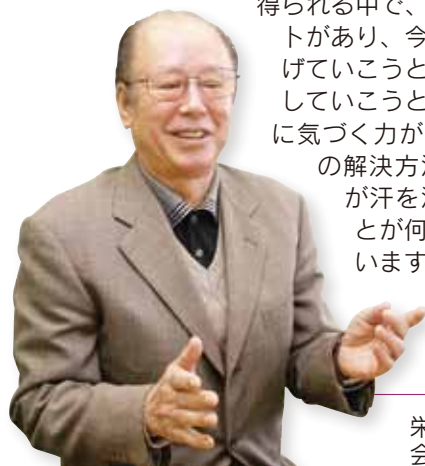
▲会が発行している『ええあい券』

インタビュー

課題に気づき、解決法を考え、汗して働くこと

高齢者が安心して生活できるよう『栄町地域づくり会』を発足し、アイデアを出し合いながら活動を進めています。高齢者からは「見守られているのを感じる」との感想をいただき、取り組んできて良かったと考えています。先日、NPO 法人の認証を受けました。社会的に信用が

得られる中で、資金確保などにメリットがあり、今後さらに活動の幅を広げていこうと思います。地域を良くしていこうとすると、まずは課題に気づく力が必要です。そして、その解決方法を柔軟に考え、自らが汗を流しながら行動することが何よりも大切だと考えています。このような取り組みが、市内全体に広がっていけばと思っています。



栄町地域づくり会
会長 井手 薫さん

の希望者を対象にした『ええあい券』が平成 24 年 10 月からスタートしました。これは、近所のスーパーの特売日に高齢者を自動車で搬送し、買い物を支援する活動。店内が混まない時間帯に行うなど配慮しながら実施されています。利用者は商品を手に取り、自分の目で確かめながら選ぶことができますので、たいへん好評のようです。

体などと一緒に、高齢者が楽しく安心して生活できる地域づくりを進めています。

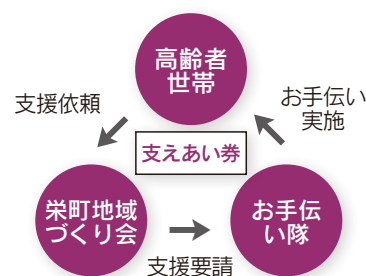
お手伝い隊が力を発揮

なぜこのように独自の取り組みを実現することができたのでしょうか。栄町では『お手伝い隊』と呼ばれるボランティアが活躍しています。皆さんは、会主催の講習や研修に参加するなどして一人ひとりが質を高めながら、活動の輪を広げています。特に高齢者自身が支援する側として参加する場合も多く、これまで培った知識や経験などを活動

③お手伝い隊とええあい券

『お手伝い隊』がボランティアを行うと、30 分につき『ええあい券』1 枚が会から交付されます。1 枚は 250 ポイントで、5,000 ポイント以上になると記念品と交換できる仕組みになっています。

これは、支援を依頼する高齢者が遠慮したりお礼などに気を遣ったりしないようにシステム化されたものです。同様に、会からも気軽に支援要請することができます。



さらに NPO 法人へ

会では、さらに活動の幅を広げ自立した組織となるために、平成 24 年 12 月に NPO 法人の認証を受けました。NPO とは、利益を目的としない組織のこと。社会的な信用が得られるというメリットがありますので、今後もさまざまな活動が活発に実施されることで、より効果的な地域づくりが進められることが期待されます。

特集のまとめ

今回の特集では、2 つの団体の取り組み事例を紹介しました。いずれの場合も、そこに住む人が地域の課題を自分のこととして捉えて対応策を考え、解決していく仕組みを作り出しています。

住民の自発的な意欲を引き出すためには、自分たちの地域だという愛着を深め、一緒に何とかしようという連帯感を高めていくことが大切です。地域における一番の財産は『人』です。その財産を大いに生かして、今年も地域から精一杯の元気を発信していきます。